

テレビゲームやスマートフォンの利用時間と学力の関係

スマートフォンやゲームについての家でのルールづくりを

平成29年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査において、「平日1日当たりのテレビゲームの時間」「スマートフォン等の利用時間」についての調査がありました。小・中学生ともに下のグラフのようにテレビゲームやスマートフォンの利用時間が増加傾向にあり、正答率とのクロス集計グラフを見ると、利用時間が長いほど、正答率が低い傾向にあります。テレビゲームとスマートフォンを合わせた平日1日当たりの利用時間が3時間以上の小学生は、全体の約15%、中学生は30%となっており、特に中学生の割合が高い状況となっています。

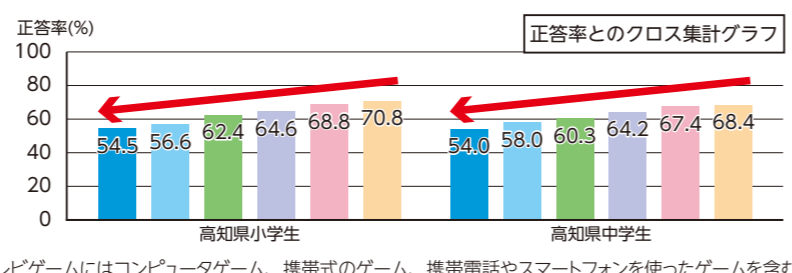
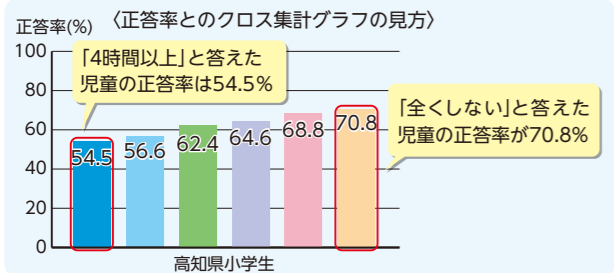
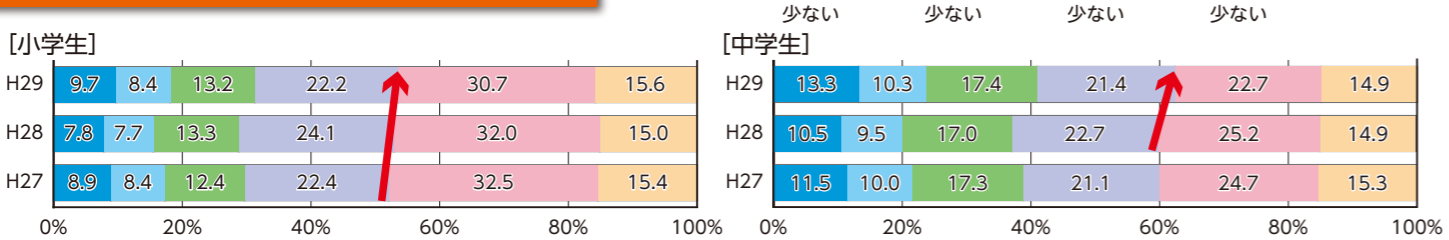
また、次のような結果も出ています。

スマートフォン等の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	(%)	きちんと守っている	約束がない	持っていない	テレビ、ゲームの時間などのルールを家の人と決めていますか	(%)	している	どちらかといえばしている
		小	33.7	10.1			36.0	小
中	21.1	22.9	20.1	中	12.0	15.9		

スマートフォン等の使い方について約束をきちんと守っていると答えたのは、スマートフォン等を持っている小学生の中の約半数、中学生の約4分の1でした。また、テレビやゲームの時間などについてルールを決めている（「している」）と答えた小学生はおよそ3人に1人、中学生はおよそ8人に1人でした。

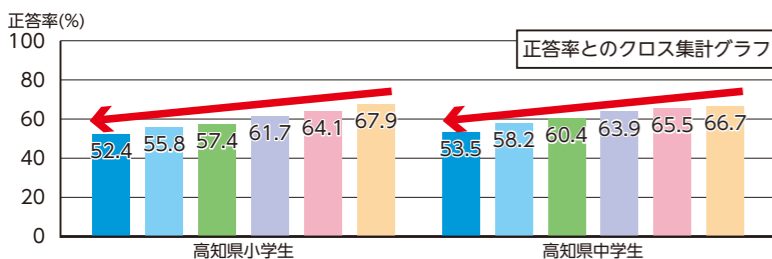
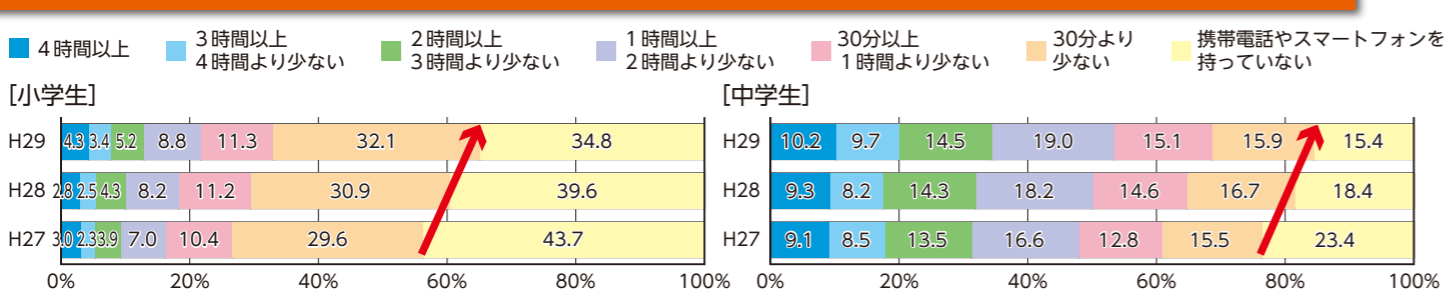
各家庭では、まずは子どもと話し合ってルールをつくることから始め、そのルールをしっかりと守ることができるようにサポートしていくことが大事ではないでしょうか。

平日1日当たりのテレビゲーム時間



※テレビゲームにはコンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む

平日1日当たりの携帯電話やスマートフォンでの通話・メール・インターネットの時間



※携帯電話やスマートフォンを持っていないと答えた児童生徒はクロス集計に含んでいない
 ※携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く

※このリーフレットに関するお問い合わせは、高知県教育委員会事務局小中学校課 (TEL.088-821-4908) まで



～保護者・教職員の皆様へ～

平成30年度版

自ら学ぶ力を育てるために

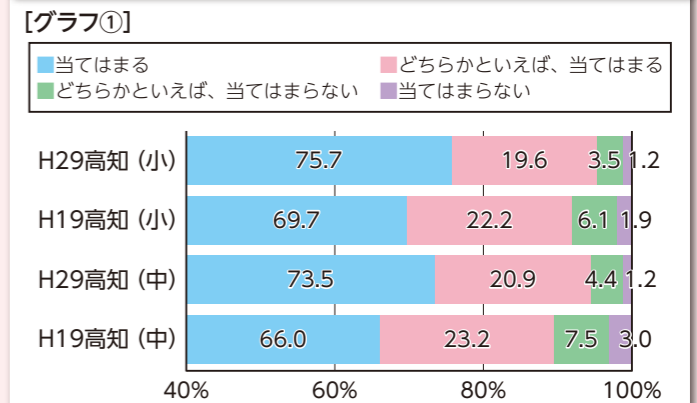


継続は力なり

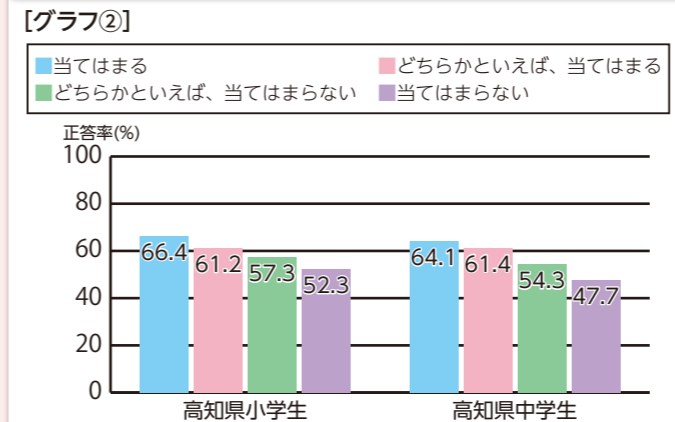
平成19年度から始まった全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の中には、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」という児童生徒への質問項目があります。これに、平成19年度当時「当てはまる」と答えた割合は、右の【グラフ①】に示したように小学生で約70%、中学生で約65%でした。それから10年、平成29年度においては、小・中学生ともに約75%まで増加しています。

本県の子どもたちに、日々の生活や学習の中で、目標や志をもち、これに向けて努力する、頑張る姿勢が育ってきていることが分かります。うれしいことです。

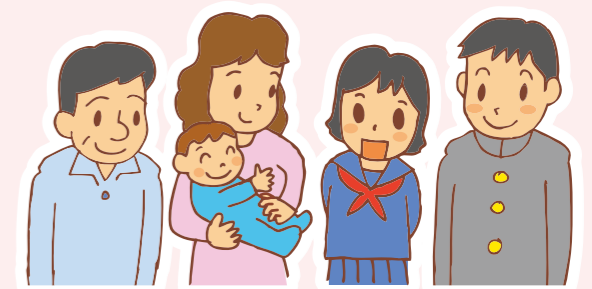
【ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか】



【ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか】



また、【グラフ②】のように、この質問で「当てはまる」と答えた小・中学生は、学力調査においても正答率が高い傾向が見られ、「やり遂げる力」と「学力」には、関連があります。



「継続は力なり」という言葉があります。どんなことも継続して努力し続けることは、目標達成につながるばかりでなく、人の心身を鍛え、大きな自信をつくることにもなります。成長途上の子どもたちであればなおさらのことです。子どもたちが目標を立て、この達成に向けまっしぐらに努力する、努力を続ける道を歩んでくれることを大いに期待するものです。

そして、このような子どもたちの頑張りは、彼らを支える大切な存在である保護者の方々や学校の先生方によるあたたかなまなざしや応援があればこそ継続されるものです。私たち大人こそ、子どもたちを励まし見守り続ける力を培わなければなりません。頑張りましょう。

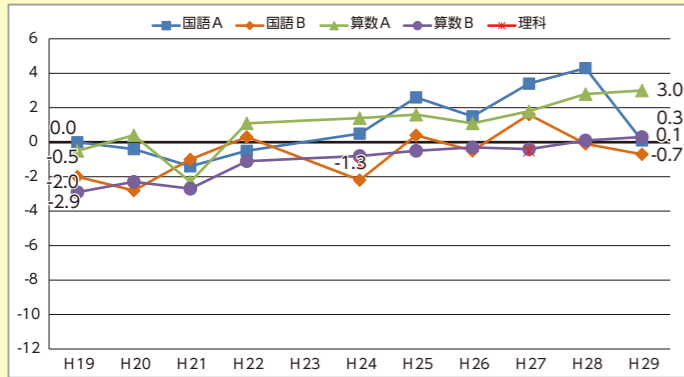


高知の子ども一人一人が、自らの未来を切り拓くために

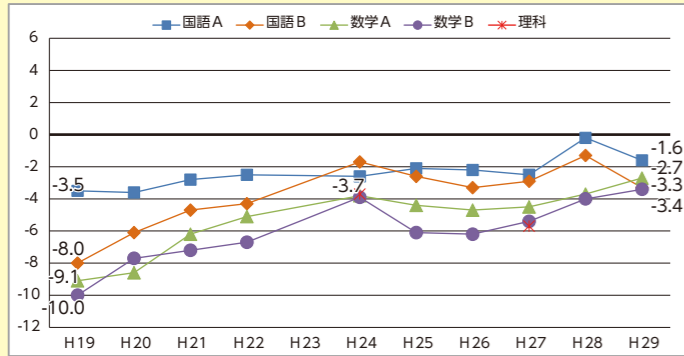
全国学力・学習状況調査の結果より

教科に関する全国平均正答率との差

小学校調査



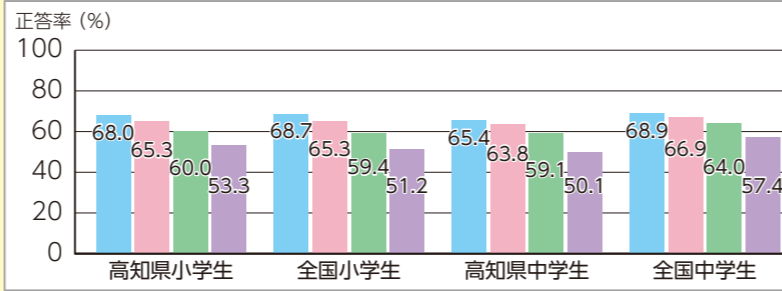
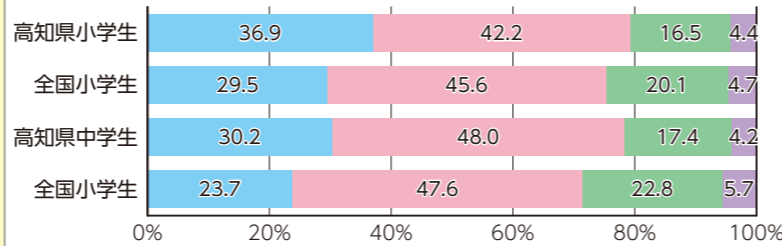
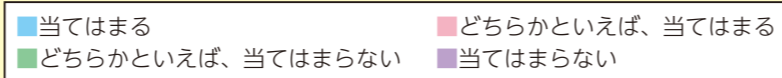
中学校調査



※平成22・24年度は抽出調査、平成23年度は東日本大震災の影響により全国調査は未実施 ※平成28年度は、熊本地震の影響により、熊本県全域、宮崎県及び大分県の一部市町村教育委員会の結果は反映していない

【児童生徒質問紙調査】

授業で、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思うか

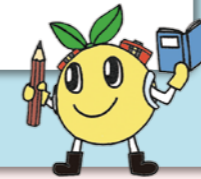


全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査には、授業改善の視点が示されています。各学校は、調査の結果等を授業改善の成果指標としてとらえ、学力向上の取り組みを進めていきましょう。

このような授業が求められています

これからの子どもたちには、身に付けた知識や技能を状況に合わせて使いこなしたり、思考力、判断力、表現力等を育成して未知の状況に対応したり、学んだことを人生や社会に生かそうとしたりすることが求められています。

各学校は、このような力を身に付けることのできる授業を組織的、計画的に行っていく必要があります。



高知県学力定着状況調査

平成30年1月10日に、第6回となる高知県学力定着状況調査を実施しました。本調査は、高知県の児童生徒の学力の定着状況を把握・分析し、その結果を学習指導の充実や指導方法の改善に生かすことで、児童生徒の学力の向上を図っていくことを目的としています。

調査問題として、これからの社会を生き抜いていく上で必要とされる「課題を発見し、解決していくために必要な思考力、判断力、表現力等」を問う内容を出題しています。児童生徒に、新たな課題に挑戦し、解決を図っていく力を身に付けさせることが、求められています。

多くの学校で授業研究が行われ、子どもが進んで学ぶことや、子ども同士が多様な考えを出し合って協働的に学ぶことなどについての実践と研究が進められています。今後も子どもたちの学習の過程全体を見通し、学校全体で組織的に指導方法を工夫・改善していきましょう。



子どもたちの学力を育むために

学校の組織力の強化を図る

中学校組織力向上のための実践研究事業・中学校組織力向上のための実践指定校支援事業

一人の教員が複数学年を担当する教科の「タテ持ち」方式を通して、教員同士が切磋琢磨しながら、組織的・協働的に指導方法の改善や授業力の向上を図ります。そして、チーム学校として、全教職員で子どもたちを育成していきます。

学力向上のための学校経営力向上支援事業

各学校が中期的な展望に立ち、学力向上対策のPDCAサイクルをより効果的に機能させるために、「学校経営計画」を策定し、組織力向上と授業改善を図っていきます。

主体的・対話的で深い学びの実現を図る

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進します。また、授業力向上に結び付く授業研究の質的転換を図るとともに、9年間の学びを踏まえた教科等の横断的な視点で授業づくりを進めていきます。

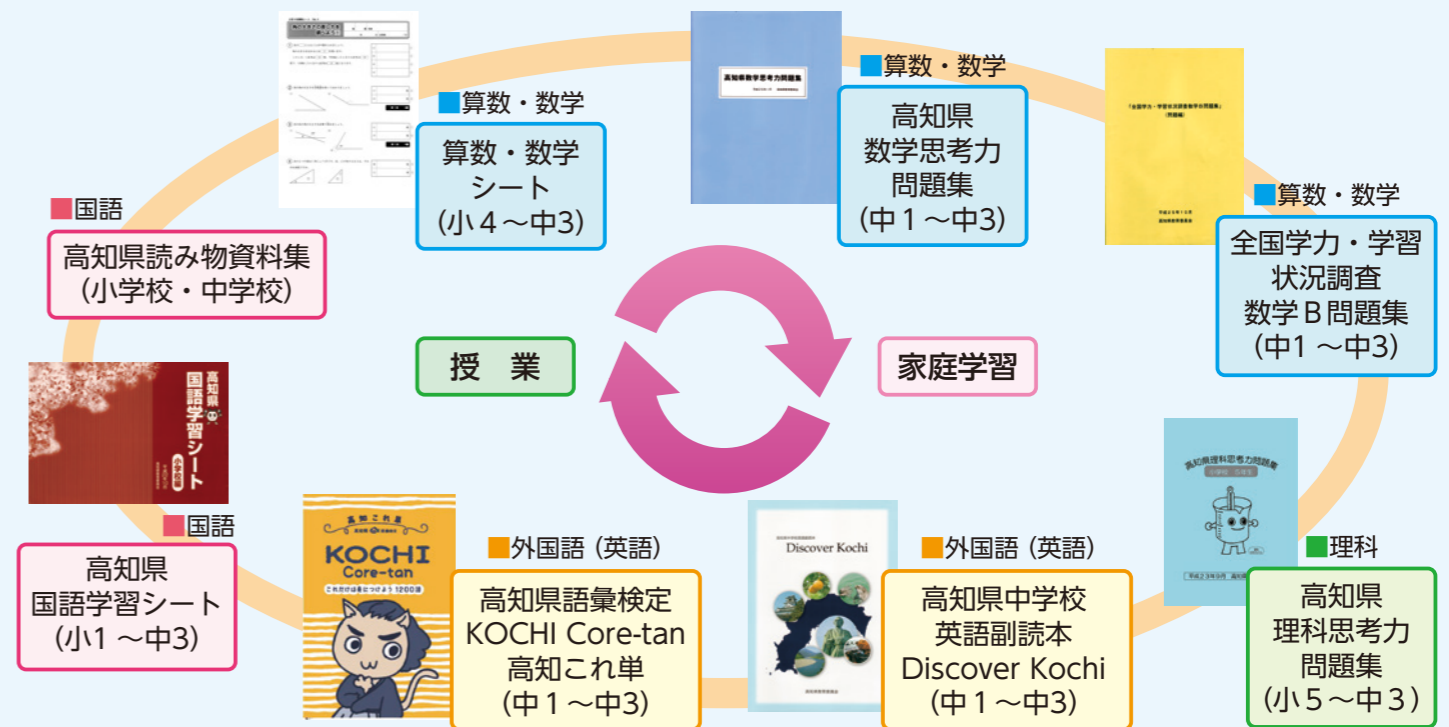
放課後の学びの場の充実を図る

放課後等における学習支援事業

児童生徒の基礎学力の定着や家庭における学習習慣の確立等、個々の児童生徒の課題の解決に向け、計画的に対応することができるよう市町村や各学校が実施する放課後等の補充学習の支援を充実していきます。



授業と家庭学習のサイクル化に向けて



高知県教育委員会では、今後も授業と家庭学習のサイクル化を進めるため、児童生徒一人一人の学力の定着状況を把握し、分析するしくみを充実させていきます。また、授業の課題や家庭学習の教材として、単元テスト・学習シート等の効果的な活用を進め、学習の質の向上につながる取り組みを進めていきます。